

妙泉寺便り

秋山自雲靈神大祭

しゅうざんじょうんれいじんたいさい

八月一日(土)

十九時より本堂にて盛運祈願祭
二十時より境内にて大祭



毎年恒例の「秋山自雲
靈神大祭」が近付いて参
りました。

悪質な痔で亡くなった
秋山自雲居士を偲ぶ為、
そしてまた、お参りされ
ました皆様が今年の夏も
無事に過ごされますよう
祈願するお祭りです。

第8号

発行所:本覚山妙泉寺
岡山市南区古新田633
TEL:086-282-0001
FAX:086-282-7602
URL:http://park19.wa
kwak.com/~myousenzi/

わせをプレゼント致しま
す。

皆様、どうぞよろしく
お願い致します。

本年もまた「かき氷」

や「金魚すくい」「ヨー

ヨー釣り」はもちろん、

「唐揚げ」や「フライド

ポテト」「塩タン串」等

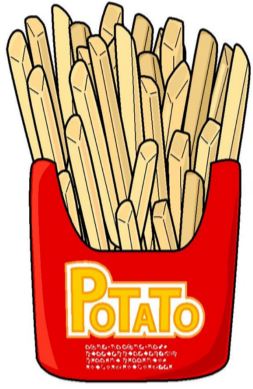
の屋台も出店します。

是非ご家族お揃いで、

またご近所お誘い合わせ

の上、当山までお参り下

さい。



※例年通り、小学生以下
のお子様には行灯の習字
をお願い致します。

行灯(あんどん)を出
されたお子様にはもれな
く、後日お菓子の詰め合



八月十八日(火)
当山

施餓鬼会

十三時より

初盆施餓鬼会

十四時より

一般施餓鬼会

本年八月十八日(火)

の十三時より、本堂にて

「新盆施餓鬼法要」を行

います。

お寺はご先祖様が安住

している道場です。



特に新しく仏様を迎え

られた本年初盆の家庭で

は、施餓鬼法要に際して

お寺へとお参りし、亡き

人のために、布施・読経

修行することにより、追っ

て善を積み供養をする

「追善供養」を行います。

初盆施餓鬼が終わります

すと、続いて一般の方々

の「施餓鬼法要」を厳修

します。

「施餓鬼」とは読んで

字の如く「餓鬼に施す」

と書きます。

私たち一人一人のご先

祖様に対しての供養はも

ちろんですが、この功德

によって迷える魂にも飲

食を施し、餓鬼を供養す

るのです。

私たちの中にも餓鬼の

心はあります。「あれも

欲しい、これも欲しい、

まだ足りない、もっともつ
と。」と傷つけ合い、奪
い合う、それが餓鬼の心
です。私たちは次の三つ
の心を育てることにより、
餓鬼の心を抑えることが
出来るのです。

①感謝の心

太陽が昇り、朝日で目
覚める「今日も一日、こ
の命を大切にし、精進し
て参ります。」

自分が今こうして生き
ているのは、多くの命を
頂いているからこそ、総
てに感謝する。何事も素
直に「ありがとう」と言
える心。

②反省の心

今日一日の自分を省み
る。厳しい現代社会や人
間関係において自分に何
が出来たか。「本当にこ
れが正解だったのか。」
自問自答し、時として素
直に謝れる心。



③施しの心

お金や物品だけでなく、
目には見えないものを施
す。積極的に挨拶をする・
笑顔で接する・譲り合え
る心を持つ。また時には
ボランティアや清掃活動
など、自らの身体を使っ
た奉仕。

食事も独りでは寂しい
が、二人・三人と集まれ
ば、その喜びでより一層
美味しく感じられる。

仏様の心も同じく、苦
しい時に苦勞を分け合え
れば乗り越えられる。嬉
しい時に分け合えれば倍
になって返って来る。苦
樂を共にすること、施し
の心を育てましょう。

尚、施餓鬼法要のお申
し込みは、後日、お配り
します案内用紙にてお願
い致します。



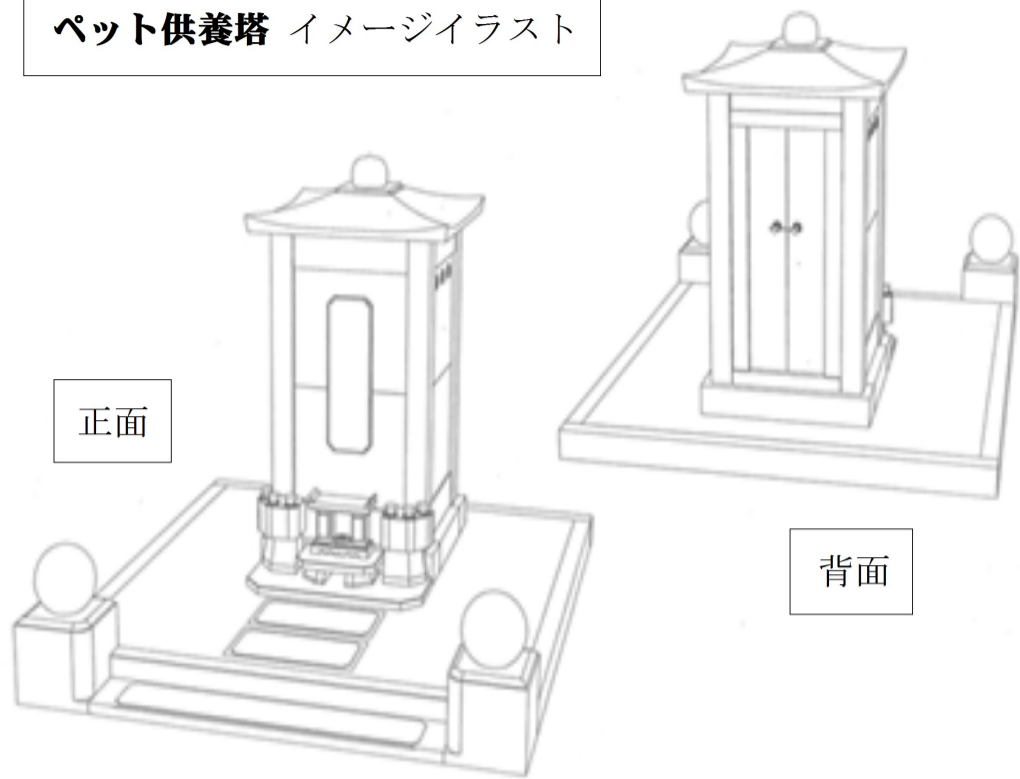
ペット

供養塔

この度、当山墓地の西側に、ペット専用の納骨供養が出来る「ペット供養塔」を建立することとなりました。

昨今のペットブームにおいて、犬や猫は動物であつても「家族の一員」という意識があり、その大切な家族は人間よりもはるかに寿命が短く、一昔前は亡くなりますと自

ペット供養塔 イメージイラスト



正面

背面

宅の庭や土手、河川敷等々に埋葬される方が多かったのですが、現代ではそれも不可能となり、葬る場所もなく、ただ火葬場で処理してもらうしか方法がありません。

「ペットロス」という言葉があるように、長年可愛がつっていたペットを失ったご家族の苦悩・悲しみは計り知れないものがあります。だからこそ、そんな時に読経・塔婆供養をもつ

て埋葬する場所があれば安心出来るのではないのでしょうか。古来「犬畜生」という可哀そうな言葉があります。命ある同じ動物」という意識があれば、おそろかには出来ないでしょう。

というわけで今回、「ペット供養塔」建立の運びとなりました。

今月二日には、総代様方ならびに古新田石材様立ち会いのもと、建立予定地の地鎮祭も厳修致しました。順調に工事が進めば、年内には「開眼法要」も厳修する予定です。尚、「ペット供養塔」には当山檀信徒の皆様はもちろんですが、檀信徒以外の方でも納骨出来ま



塔婆供養



普段の法事やお施餓鬼、またペット供養等の際には、木で作られた「塔婆（とうば）」を建立し、私たちの先祖様を追善供養した後、墓地へと建立しますが、そもそもなぜ私たちは「塔婆」を建てて供養するのでしょうか。

塔婆は「仏塔（ストウパー）」とも訳され「お釈迦様の遺骨を納めた塔」のことを意味します。お釈迦様が入滅すると、遺骨が八つに分けられ、八つの国に遺骨を安置するための仏塔（ストウパー）が建立されました。その後、お釈迦様の弟子達も仏塔を建てて供養するようになりました。元々はお椀を伏せたような形をしていましたが、仏教が中国・朝鮮半島を経由して日本に渡るまで、時代とともに色々な形に変化しています。

日本のお寺でよく見ることのできる五重塔、五輪塔も元をたどれば仏塔（ストウパー）です。

お墓に立てる木片の塔婆の形状も、五輪塔の形がもとになっており、この世に存在する総ての物質を構成する「五大（ごだい）」が表現されています。

下から順に「地」「水」「火」「風」「空」から成っています。



この五つをかたどった塔婆を立てて供養すること、一切の功德を施すことになり、仏様・ご先祖様への供養へとつながるのです。

八月には、当山の施餓鬼法要があります。私たち一人一人のご先祖様に対する供養はもちろんですが、自分の力では苦しみから抜け出すことのできない餓鬼にとって、施餓鬼会が唯一の救いになるとされています。施餓鬼法要では、施餓

鬼壇に供物等と一緒に卒塔婆を建てて法要を行い、私たちの先祖様はもちろん、この功德によって迷える魂にも飲食を施し、共に供養をしましょう。

編集後記

先日、岡山県内の日蓮宗僧侶・檀信徒あわせて約六十名で沖繩県にて、戦後七十年の法要を「平和記念公園」や「琉球山法華経寺」等々で行った。

その中で「ひめゆりの塔」にて読経後、資料館を見学したが、当時まだ小学校を終えて間もない大勢の女の子達が過酷な状況下に置かれていた現実に、自然と涙が溢れて来た。そして改めて、戦争の悲惨さを感じずにはいられなかった。

その後、「ひめゆりの塔」の前でVサインで写真を撮る観光客を見て、悲しさと残念な気持ちがかみ上げて来た。

